

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ケアステキっず		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 1日		2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数) 40
○従業者評価実施期間	2025年 2月 1日		2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	障害の程度や種別が多様な子どもが在籍しているため、互いの違いを認め、尊重しあう心や協調性を育むことができる。	集団での活動に重点をおいており、多様な子どもが共に過ごすこと、様々な経験を積めるようにすることを意識している。	子ども一人一人の障害特性を理解した上で、それぞれの成長に向け適切な対応がとれるよう、職員のスキルアップを目指す。
2	土曜・祝日も営業しており、長期休みには朝から夕方まで比較的長時間利用ができることに加えて、送迎の対応を柔軟に行っている。	保護者の負担軽減も事業所の重要な役割の1つと捉え、利用しやすい事業所を目指している。	子どもが楽しみをもって継続的に通えるよう、活動プログラムをより一層充実させる。
3	保護者と日ごろからより良い関係を築けるよう、面談の機会を設け定期的にお話をする時間を設けている。	送迎の際だけでは話ができないこともあるので、時間をかけてお話ができる時間を設けて、家族様との信頼関係が築けるようにしているとともに、日々の子どもの様子を細かく共有できるようにしている。	面談を希望されない方に対しても、違った方法でアプローチをして、密に情報共有できるようにする。 保護者と共有している子どもの様子等を、日々の活動や放課後等デイサービス計画にも反映できるよう努める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ひとりひとりの子どもに対してマンツーマンで関わる時間が確保しにくい、個々のニーズに合わせた療育プログラムを提供しにくい。	集団での活動を重視しているため、個別ニーズへの対応が難しい場合がある。また、事業所のハード面においても、使用できる部屋数が多くはないことがあり、個別対応を難しくしている要因の一つになっている。	可能な範囲で個々のニーズへの対応を心掛けつつ、1つの事業所で対応しきれないニーズに対しては、他事業所との連携や役割分担を行うことでフォローする。
2	日々の活動プログラムが一定の周期ごとに似通ったものを繰り返すようになってしまっている場合がある。	多様な子どもを対象にした集団活動が活動プログラムの中心になっているため、最大公約数的なプログラムになってしまうことが多い。	大きな集団ではなく、小集団に分けた活動プログラムを充実させる。季節の行事等を取り入れ、画一的な活動プログラムにならないよう心がける。
3	日々の情報共有をリアルタイムに行えない場合があり、また、理解度も職員毎にバラつきがある。	事業所の営業時間が長く、送迎等も行っているため、営業前の事前準備、営業後の振り返り等にかける時間が限られている。	職員が一同に会することができなくても、日々の情報共有を行えるような仕組みを作る。